

# ポーランドにおけるマンガ市場 基礎調査

2008年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

**本報告書に関する問い合わせ先：**

**日本貿易振興機構（ジェトロ）  
輸出促進課**

**〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32**

**TEL：03-3582-5313**

**FAX：03-5572-7044**

**【免責条項】**

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえ、ジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

アンケート返送先 FAX 03-5572-7044

日本貿易振興機構 輸出促進課宛

ジェトロ海外マーケティング調査報告書のご利用アンケート ●  
～ポーランドにおけるマンガ市場基礎調査～

本レポートをご利用頂き、誠にありがとうございました。ジェトロの今後のサービス向上に向けて、皆様のご意見を伺いたく存じますので、アンケートにご記入下さいますようお願い申し上げます。

質問1：本報告書（ポーランドにおけるマンガ市場基礎調査）について、どの程度満足されましたか？（○をひとつ）

4：満足

3：まあ満足

2：やや不満

1：不満

質問2：上記のように判断された理由、またその他本報告書に関するご感想をご記入下さい。

質問3：その他ジェトロへの今後のご希望等がございましたら、ご記入願います。

ふりがな お名前		会社・団体名	
部署		役職	
住所			
TEL		FAX	
E-mail		HP	

～ご協力ありがとうございました～

ご記入頂いたお客様の情報は適切に管理し、ジェトロの事業評価及び業務改善、事業フォローアップのために利用します。

★ 今後、お客様のご関心のあると思われるジェトロおよび関係機関の各種事業、調査報告書等のご案内の可否につき、該当欄に✓をご記入願います。

< 送付可  送付不可  >

お客様の個人情報保護管理者：日本貿易振興機構 輸出促進課長 TEL:03-3582-5313  
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32 Eメール：EXA@jetro.go.jp

## 目次

はじめに .....	5
ポーランドの「マンガ」事情 .....	6
(1) ポーランド・マンガ事業の歴史 .....	7
(2) 市場規模・推移 .....	11
市場規模 .....	11
発行部数・実売部数 .....	12
市場の動向 .....	14
(3) 伸び悩みの背景・その対策 .....	15
購買力と価格 .....	15
旧・共産主義教育の遺産 .....	16
インターネットの普及 .....	17
書籍流通の課題 .....	18
(4) ポーランドで事業を行う意義 .....	21
(5) 今後の展望 .....	21
(6) ポーランドの主な既刊マンガ一覧 .....	23

## はじめに

ポーランドの「マンガ」は、初翻訳が96年にはじまりましたが、市場規模は現在も小さいものにとどまっています。書籍流通市場（図1参照）に占める「絵本（マンガ含む）」の割合（2006年通年の金額ベース）は8.7%で、金額としては、2億500万ズロチ（約92億円相当）です。しかし、ここには、ポーランドの児童向け「絵本・イラスト」や欧米系「コミックス」が含まれるため、厳密な意味での「日本のマンガ・コンテンツ」は、その一部です。

しかし、「日本のマンガ・コンテンツ」の「ポーランド語による出版」を手掛ける事業者が3社も存在し、厳しい事業環境ではありますが、10年以上も事業を継続している点は注目に値します。地方店舗を含めて殆どの大型書籍流通チェーンには小規模ですが、「マンガ・コーナー」が設置されています。購読者も1万人以上は存在するものと推定されますが、そうしたまとまった“市場”が想定されるのは、東欧圏ではポーランドだけである、とされています。

本調査は、ポーランドで「マンガ」出版事業を手掛ける現地企業「WANeko」社の共同経営者・綿貫健一郎氏に執筆を依頼し、ジェトロ監修により行いました。

市場規模や販売データなどポーランド・ズロチ（及びユーロ）で表記される場合がありますが、便宜上、1ズロチ=45円（1ユーロ=165円）にて換算することとします。

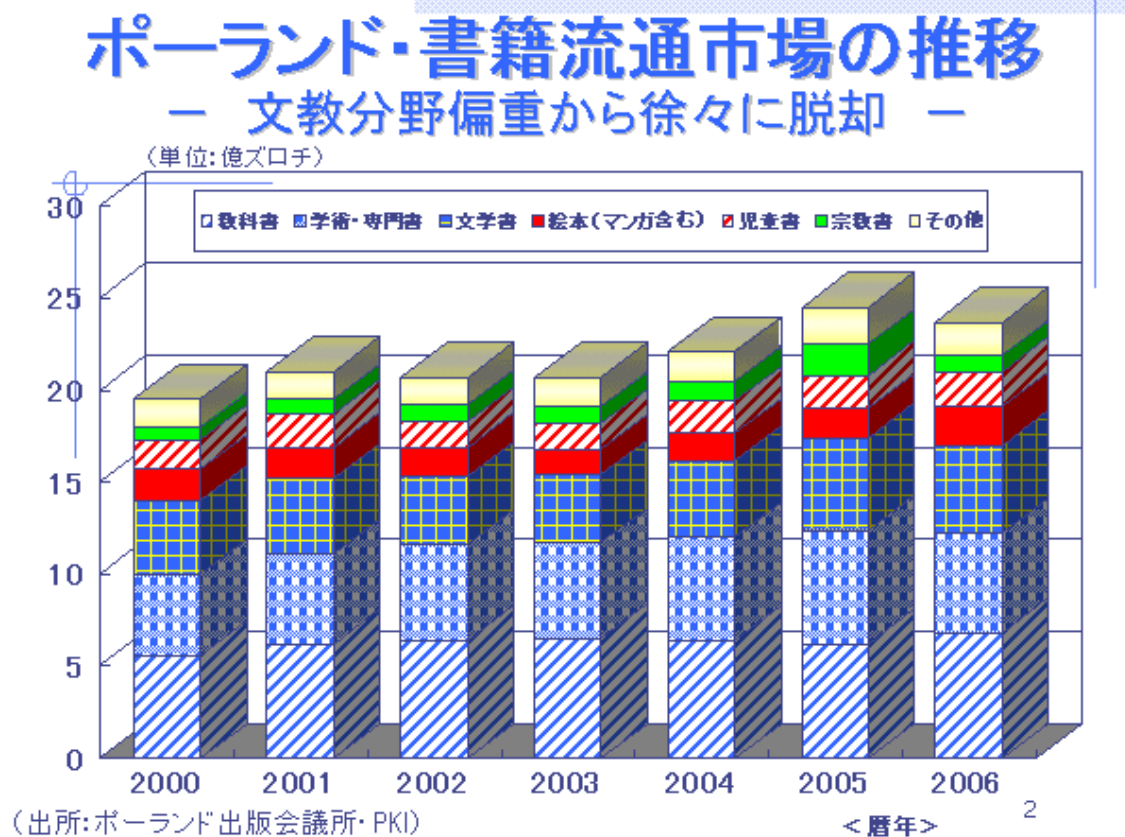
本報告書が、日本製コンテンツをポーランド市場に展開するビジネスに僅かでも貢献できれば幸いです。ご助言やご協力をいただいたコンテンツ関連団体・企業の皆様に心からお礼申し上げます。

日本貿易振興機構（ジェトロ）



書店の一角を占めるマンガ・コーナー（ワルシャワ市内）

【 図 1 】



### ポーランドの「マンガ」事情

日本では「マンガ」と「コミックス」は、ほぼ同義語だが、ポーランド（欧米諸国も）では、「コミックス」は米国及び欧州系の作品を意味し、通常、日本の「マンガ」は含まれない。ポーランドでは、これら「コミックス」市場は「マンガ」の数倍程度はあるものと推定されるが、本節では「日本のマンガ・コンテンツ」を対象を限定する。但し、ポーランドに限らず、米国や韓国の作家による「マンガ」作品も相当の水準に達しているものも存在し、最近の流通市場では日本の「マンガ」と同様に扱われているようである。

更にポーランドでは、「マンガ」の歴史が浅く、“ポーランド製”マンガ・コンテンツはまだ確立していない。同人誌レベルでポーランド人が日本のマンガを模倣した作品が存在しているが、「ストーリー性」及び「画法技術」において、比較できる水準にはない。購買側（読者）でも「マンガは“日本製”ではなければダメ」とする“ブランド信仰”が根強く、日本以外では、「韓国マンガ」が認知されている程度である。

## (1) ポーランド・マンガ事業の歴史

ポーランドで最初にマンガ出版を始めたのは「JPF (Japonica Polonica Fantastica)社」で、第1作は『天の果てまで』である。この第1巻が出た1996年11月が、ポーランドの「マンガ元年」である。

JPF社はポーランド在住の日本人が創業した企業だが、『天の果てまで』に続き、1997年には『美少女戦士セーラームーン』シリーズの販売を開始。その後も、JPF社は『新世紀エヴァンゲリオン』『ドラゴン・ボール』『ポケットモンスター(ポケモン)』『NARUTO-ナルト-疾風伝』と言った世界的なヒット作をポーランド語に翻訳、出版している。中でも、『ドラゴン・ボール』42巻を隔週で出し続けた2001～2002年はポーランド・マンガ市場の“最盛期”であったと言える。その後も、今日に至るまで、JPF社はポーランド・マンガ市場におけるリーダー的存在である。

2番目が「WANEKO(和猫)社」で、第1作は1999年9月に発刊した『What s Michael?』シリーズの第1巻である。WANEKO社の共同経営者のひとは、日本人であるので、ポーランドには、マンガ出版に携わる日本人の経営企業が2社、存在している。市場規模の狭小性(詳細後述)に照らして考えると、特殊な状況と考えられる。WANEKO社は、その後も『マンガの描き方』『GT0』『ラブひな』といった作品を翻訳・出版している。また、2001～2004年までは、マンガの隔月刊誌『マンガミクス(Mangamix)』を18号まで発行していた。しかし、上記のJPF社と比べると、大きなヒット作は少ない。

2002年には、3番手として、デンマークの児童文学・若年層向け出版大手「エグモント(EGMONT)」社がマンガ市場に参入する。ポーランドの現地法人であるエグモント・ポーランドが設立されたのは、1990年だが、ディズニーの『ドナルドダック』を刊行しており、児童向けアメリカン・コミックスでは、ポーランド最大手である。欧州各地に支社をもつエグモントは、スウェーデン・デンマーク等北欧各国でマンガ出版を活発に行っており、ドイツでは、相当数のマンガを毎月のペースでリリースしているが、エグモント・ポーランド社は『らんま1/2』や『犬夜叉』(麻生太郎外相(当時)のポーランド訪問時にポーランドのアンナ・フォティガ外相(当時)から贈呈されたことで知られる)などのヒット作を出しているものの、ポーランド・マンガ市場の規模から、同社全体としては、マンガ事業は“ミニ事業”と位置付けられているようである。製作用の版下は、隣国・ドイツのエグモント社から提供されているようである。JPF社とWANEKO社が従業員・数人の個人零細企業であるのに対して、エグモント・ポーランドは大型出版企業であるが、マンガ事業はその一部に過ぎない。



書店には『犬夜叉』コーナーも出現（ワルシャワ市内）

この他、ポーランドには韓国マンガを主に手掛けている「KASEN」という企業もある（経営者はスペイン人）。また、「Mandragora」というコミック専門事業者もマンガ（『バガボンド』『子連れ狼』）を発刊したが、販売不振に伴い、現行シリーズが終わった時点で、マンガ事業から撤退した。

### 【ポーランドの主なマンガ出版事業者】

出版社	参入時期	住所	ウェブサイト
JPF (Japonica Polonica Fantastica)	1996	Ul. Podmiejska 2a, 72-006 Mierzyn	<a href="http://www.jpfc.com.pl">www.jpfc.com.pl</a>
WANEKO	1999	Ul. Powstancow Slaskich 49/41, 01-355 Warszawa	<a href="http://www.waneko.pl">www.waneko.pl</a>
Egmont Polska	2002	Ul. Dzielna 60, 01-029 Warszawa	<a href="http://www.egmont.pl">www.egmont.pl</a>
Kasen (韓国マンガ専門)	2004	Ul. Jodlowa 28, 05-077 Wesola	<a href="http://www.kasencomics.com">www.kasencomics.com</a>
Mandragora (マンガ出版は終了)	2005	Ul. Poczty Gdanskiej 22a, 02-495 Warszawa	<a href="http://www.mandragora.com.pl">www.mandragora.com.pl</a>



上記以外にも、過去にマンガを出版した事業者（現在は撤退）は数社ある。

- ・ SAISHA : やおい（ボーイズ・ラブ）系専門のマンガ出版社としてスタートしたが、2タイトル・3巻を出版した後、撤退。[www.sai sha.kasumi.pl](http://www.sai sha.kasumi.pl)
- ・ MANGAYA : 日本人の経営だったが、1タイトル・1巻の出版にとどまる。
- ・ ARASHI : 『メトロポリス』（手塚 治虫氏の古典作品）を出版。
- ・ TM-SEMIC: 米国系コミックス専門の出版社だったが、日本マンガ『アップルシード( Apple Seed )』を英語版の翻訳で出版。

また、2007年にマンガ事業に参画した事業者として、「Hanami 社」が『サプリ ( Suppli )』というレディース・コミックスを2巻まで出版している。[www.hanami.pl](http://www.hanami.pl)

この他、商業ベースに乗らない“同人誌”は幾つもあるが、事業という段階ではないため、ここでは割愛する。

尚、日本の週刊誌や月刊誌のようなマンガ雑誌は、現在のポーランドでは皆無であるが、かつては数誌存在した。その中でも、特記すべきは次の2誌であろう。これらの雑誌は、マンガ文化の普及に貢献した側面もある。

- ・ 『カワイイ ( Kawaii / Mangazyn )』
- ・ 『マンガミクス ( Mangamix )』

『カワイイ』は、マンガそのものが掲載されているのではなく、情報誌である。創刊の1997年以前にも『カワイイ』のプロトタイプが存在したが、当初は隔月、その後、月刊に発展した。その後、何回か変遷があったものの、パヴェウ・ムシャヲフスキ編集長の下、カラー・イラスト付きでマンガやアニメの紹介記事が満載されていた。記事を執筆したのは、編集長以外では、マンガ愛好者のボランティアが殆どで、イラストなどの掲載は、日本側の権利保有事業者の承諾を得ていない“海賊出版”であった。最盛期の発行部数は約3万部であったと言われている。

2003年に出版元のトラブルで、『カワイイ』は実質廃刊となったが、暫くして、ムシャヲフスキ編集長の下、『マガジン ( Mangazyn )』として再スタートしている。内容は『カワイイ』同様のオタク向けの雑誌ではあったが、7号を出版した段階で2004年に廃刊している。廃刊の理由として「インターネットに負けた」とムシャヲフスキ元・編集長は語っている。

他方、『マンガミクス』は、日本の週刊マンガ雑誌を模倣して米国やドイツで発行されている月刊誌のポーランド語版を目指し、正規のライセンス契約に基づいてWANeko社が発行したものである。しかし、WANeko社の財政事情、及び市場の狭小性のために、発行ペース

は月刊ではなく隔月であり、収録作品数も多くて4作品だった。発行部数も最盛期で約6,000部である(米国やドイツでは、この種のマンガ雑誌の発行部数は、最低でも3万部)。結局、18号を以って廃刊。

以上のように、ポーランドではマンガの歴史が「10年程度」で、市場規模が極めて小さい現実がある。このため、逆説的だが、情報誌や同人誌に無断掲載されるイラストを除けば、マンガ自体の海賊版は存在しない。

日本のマンガのライセンスを取得する場合、ポーランドにはマンガ専門の現地代理店はないので、著作権を所有する日本側の「出版社との直接契約」か、日本国内あるいは米国の「代理店経由の契約」となる。「直接契約」か「どの代理店経由」にするかは、基本的には著作権を所有する日本側の意向に順ずる。

## (2) 市場規模・推移

マンガも書籍である以上、その市場規模を測る目安としては、売上高や、発行部数・実売部数が重要となる。しかし、ポーランドのマンガ市場の規模を定量的に把握することは難しい。理由は以下の通りである。

- ・ マンガ出版事業の主要 3 社の中、エグモント以外の 2 社は、従業員数人の零細企業であり、精緻なデータ開示を行っていない。
- ・ 事業規模の狭小性から産業団体も存在せず、競合企業間で情報共有する習慣もない。

このため、以下の分析・考察は、推測による部分が大きいことに特に留意されたい。

### 市場規模

出版専門調査企業ビブリオテカ・アナリジュの調査（2006 年）によれば、エグモント・ポーランド社は、ポーランド出版事業者中売上高 13 位となっており、書籍部門全体の売上高は 3,820 万ズロチ（約 17 億 1,900 万円）である。但し、マンガの売上高が幾らであるかは公表されていない。

他方、同社の営業担当者によれば、同社全体の売上高に占める「コミックス事業の割合は、5%程度に過ぎない。」とのことだった（2006 年度）。この場合の、「コミックス」とは、同社の“ドル箱”事業である「ドナルドダック」などの幼児・児童向けのコミックスを除いた「ヨーロピアン・コミックス（対象年齢：10 代以上）」及び「マンガ」を指すものと考えられる。売り上げの 5%と考えると、エグモント・ポーランド社によるコミックス（ヨーロピアン・コミックス+マンガ）事業の売上高は、191 万ズロチ（約 8,595 万円）程度と推測される。

JPF 社社長は、「『ドラゴン・ボール』がヒットした最盛期（2002 年）には、年間売上高が 500 万ズロチ（約 2 億 2,500 万円）相当に達したが、他方、2006 年には、マンガの売上高が最盛期の 4 分の 1 まで減少した。」と語っている。

WANEKO 社の売上高は、ここ数年ほぼ横這い状態である。2003～2006 年の年間平均売上高は、65 万ズロチ（2,925 万円）という状況である。

その他、KASEN と Mandragora（マンガ部門）の売上高は上記 3 社よりも低いものと推測される。上記のエグモント社と JPF 社に関する推測は、飽くまで“目安”に過ぎないが、2006 年におけるポーランドのマンガ市場は、売上高規模においては、多く見積もっても 400 万ズロチ（1 億 8,000 万円）相当以下であると考えられる。

## 発行部数・実売部数

2000年頃ポーランドのマンガ人口は2万人程度と推測される。当時、マンガ・ファンの間に絶大な影響を及ぼしていた月刊情報誌『カワイイ』の公称発行部数は3万部（雑誌発行部数に対する実売率は、一般に発行部数の4~6割程度とされる）であった。このことから、当時のマンガ・ファンの殆ど大部分が購入していた『カワイイ』は、実売部数で1万2,000~1万8,000部と推測され、当時のマンガ人口も2万人程度というのは過大な数字ではない。

この数は2001年からJPFが出版を始めた『ドラゴン・ボール』のヒットによって、増加したと考えられる。同社は、この人気作品の単行本（42巻）を隔週ペースで出版を続け、1巻あたりの発行部数は少なく見ても1万部以上（数万部との見方も）はあったと推測される。この背景には、通常、マンガを買わないポーランドの若年層までも『ドラゴン・ボール』だけは買う、という特殊な現象があった。この時期は、マンガ市場としては“空前のビジネスチャンス”だったと言える。

しかし、結果から言えば、『ドラゴン・ボール』の人気はマンガ市場全体の拡大には繋がらなかった。『ドラゴン・ボール』を読んでいた読者層の多くは、“ブーム終焉”と共に「マンガ市場からも去った」ということになる。

## 【ポーランドでの発刊マンガ・タイトル数（2006年～2007年9月）】

	JPF	EGMONT	WANeko	KASEN	MANDRA	合計
Jan-06	2	2	2	1	0	7
Feb-06	2	1	1	0	1	5
Mar-06	2	1	4	2	0	9
Apr-06	1	1	2	0	1	5
May-06	2	1	2	1	3	9
Jun-06	0	1	1	1	1	4
Jul-06	0	0	1	0	1	2
Aug-06	0	1	3	1	2	7
Sep-06	1	2	1	0	2	6
Oct-06	1	1	1	0	0	3
Nov-06	3	2	3	1	2	11
Dec-06	2	0	1	0	1	4
Jan-07	1	3	2	1	1	8
Feb-07	2	2	1	0	0	5
Mar-07	3	2	2	1	1	9
Apr-07	1	2	1	1	1	6
May-07	0	2	1	1	0	4
Jun-07	3	2	2	0	1	8
Jul-07	1	2	1	2	0	6

Aug-07	1	2	3	0	0	6
Sep-07	2	1	0	1	0	4
合計	30	31	35	14	18	128
月平均	1.4	1.5	1.7	0.6	0.9	6.1

マンガ以外の書籍・増刷は除くが、欧米系や韓国のマンガも含む

出所：企業ウェブサイト情報に基づきポーランド・マンガ出版事業者 WANEKO 社作成

上記の主要 5 社による発刊タイトル（新刊マンガ）数は、21 カ月間で 128 冊、毎月平均で見ると約 6 冊に過ぎない。新刊の発行タイトル数としては、最近のポーランド市場は、東欧圏では大市場であるものの、ドイツの 10 分の 1 程度に過ぎないと云う状況である。

発行部数は、各社とも非公表のため、推測することになる。

- ・ JPF 社： 同社社長は「最近は数千部程度」という。『ドラゴン・ボール』は初版 1 万部以上を記録したとされるが、それよりは少ないと考えられる。
- ・ WANEKO 社： 往時は約 4,000 部であったが、最近では、約 2,000 部まで減少。
- ・ エグモント社： 2002 年のマンガ市場参入当時の初版部数は、3,500 部だったが、その後の情報は不明。

初版部数は、タイトルの内容に応じて異なり、印刷部数が数百部というケースもある。従って、平均の初版部数がどの程度なのかを正確に特定することはできないが、参考として次のとおりモデルケースで試算する。仮に 1 タイトルの初版部数を 3,000 部と設定すれば、毎月の初版合計は平均 6（タイトル）のため、1 万 8,000 部である。また、4,000 部と仮定すれば、2 万 4,000 部となる。つまり、ポーランドのマンガ市場全体で、1 カ月に印刷される新刊部数が 1 万 8,000～2 万 4,000 部という概略の計算になる。

初版部数の中、何パーセントが完売するかも、タイトルによって事情は全く異なる。5 割と仮定すれば、9,000～1 万 2,000 部である。これは、1 カ月にどの程度の新刊が販売されているか、を考える目安である。

この目安に準じて、マンガ購読人口の各者が平均して 1 カ月に 1 冊のペースで新刊マンガを買うとすれば、最近のマンガ人口の規模は、9,000～1 万 2,000 人、という推測になる。

## 市場の動向

前述の分析では、2006年のポーランド・マンガ市場の規模は、売上高にて450万ズロチ(2億円)以下、購買者数にして1万人程度、と試算している。それでは、1996年以降の11年間におけるマンガ市場がどのように推移しているのだろうか。

最も適当な分析データは、売上高の推移であるが、各社の数値が公表されていない。そこで、客観的に把握できるデータとして、1996～2007年までのポーランドにおけるマンガの新刊発行数(図2.参照)をまとめた。

### 【出版事業者別・新刊マンガ発行巻数(1996～2007年)】

出版事業者	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	既刊巻数
J.P.F	1	5	6	10	22	26	54	51	51	32	15	21	294
WANeko	0	0	0	4	13	14	16	25	29	27	22	18	168
EGMONT	0	0	0	0	0	0	9	24	30	34	12	21	130
KASEN	0	0	0	0	0	0	0	0	7	19	7	7	40
MANDRAGORA	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	14	5	29
その他	0	0	4	0	3	0	0	1	1	1	0	1	11
合計	1	5	10	14	38	40	79	101	123	118	70	73	672

全体の発刊ピークは2004年である。2006年の落ち込みが激しいが、背景にはリーダー格のJPF社が新刊発行部数を大幅に減らしたことがある。2007年になり、若干持ち直しているが、2002年程度の発行である。

市場全体の売上高として、JPF社が『ドラゴン・ボール』を31巻発行した2002年が最高だったと推測される。

### (3) 伸び悩みの背景・その対策

#### 購買力と価格

現在、ポーランドで販売されているマンガ単行本の価格は、17 ズロチ（約 765 円）程度である。一方、ドイツやフランスの西欧市場では、同等のマンガ単行本は、6 ユーロ（990 円）程度である。この単行本 1 冊の単価を、仮に名目 GDP と比較すると次のようになる。

**【国民 1 人当たり GDP とマンガ単価の比較（2006 年）】** \* 2006 年購買力平価ベース国民 1 人当たり GDP（出所：国際通貨基金・IMF）とマンガ単行本単価の比較

	国民 1 人当たり GDP (ドル)	マンガ単行本単価(ドル)	対 GDP 比率 (%)
ポーランド	13,797	5.84	0.04
フランス	30,322	7.90	0.03
ドイツ	31,572	7.90	0.03
日本	31,838	3.36	0.01

1 ドル = 2.9105 ズロチ, 1 ユーロ = 1.3163 ドル, 1 ドル = 118.98 円で換算

(出所：ポーランド国立銀行・NBP, 2006 年)

即ち、ポーランドではマンガ単行本の価格は、ドイツやフランスに比べて低く設定されているが、所得水準との相对比较では、若干割高である。その他の書籍と比べても、マンガ 1 冊の 17 ズロチ前後、という単価は、一般のポーランド人にとって「高額」という印象を与える。その理由は、生産 = 販売部数が少ないため、単価に転嫁せざるを得ないからである。



消費者で溢れる大型商業施設（シュチェチン市）

## 旧・共産主義教育の遺産

1989年までポーランドが標榜してきた「共産主義」では、コミックスは「退廃した西側文化」の象徴のひとつとされてきた経緯がある。少なくとも、公の場では、コミックスに対する肯定的な評価はなされていなかった。

ポーランドに限らず欧米では、マンガの読者層の大半は、25歳以下の若年層とされているが、その多くは両親から“お小遣い”を貰い、マンガ購入に充当している。彼らの両親は概ね40代～50代であるが、ポーランドではこの年代は基礎教育を旧・共産圏時代に受けている。当時、マンガはまだ存在しなかったが、小学校や中学校においてコミックス全体に対して極めて否定的な評価をする教育が施されていた。当時、コミックスは、資本主義がもたらす無駄そのもので、労働生産に不必要な存在、と云う風潮があった。従って、ポーランド人の意識には、コミックスというものに対する否定的な“固定観念”が残っている可能性があり、子供がマンガを買うことに積極的ではない。

1990年代後半～2000年代前半にかけてマンガに親しんで育った世代の子供の時代には、事態は現在よりは改善されると思われる。この世代はまだ20～30代前半であり、その子供がマンガを欲しがると10代にまで成長するのは、最低でも5年は先であろう。





欧米コミックスと共に陳列されるマンガ（カトヴィツェ市）

## インターネットの普及

2000年頃のポーランドにおいても、個人向けコンピュータは既に相当普及していたが、インターネット接続はダイヤルアップ方式が主流であった。2007年の現在、コンピュータ性能が向上していることに加えて、ポーランドでもインターネット通信はADSLによる常時接続が通常になっている。

このインターネットの高速通信は、マンガにたいしてアニメほど顕著ではないが、無視できない影響を及ぼしている。インターネットを通じて、不特定多数の国境を越えた情報発信が簡易に行えるため、“海賊版”など不法なコンテンツ利用も可能となる。マンガの場合、インターネットの海賊版も考えられる。

インターネット接続がダイヤルアップであった時代には、数時間のダウンロード作業（電話回線の継続占有）は、ほぼ不可能であった。しかし、ADSL時代になると、何時間インターネットを利用しても接続料は変わらない。勿論、相応の手間は掛かるが、熱狂的愛好家には大きな問題にならないだろう。このようなマンガの不正視聴が著作権侵害であることは明らかだが、全世界で多くの利用者が存在する可能性は否めない。

アニメとは異なり、マンガはオリジナル媒体が製本された書籍であり、本来は携行や書棚陳列のできる書籍形態である。従って、インターネットの普及は、アニメほど直接的な脅威ではないものの、手間と時間を惜しまなければ、実質的には無料でマンガを閲覧することはできるのである。

## 書籍流通の課題

ポーランドの書籍流通市場では、未だ整備されておらず、商品納入・債権回収に困難が伴う。このため、書籍販売店との間の契約も煩雑になりがちだ。

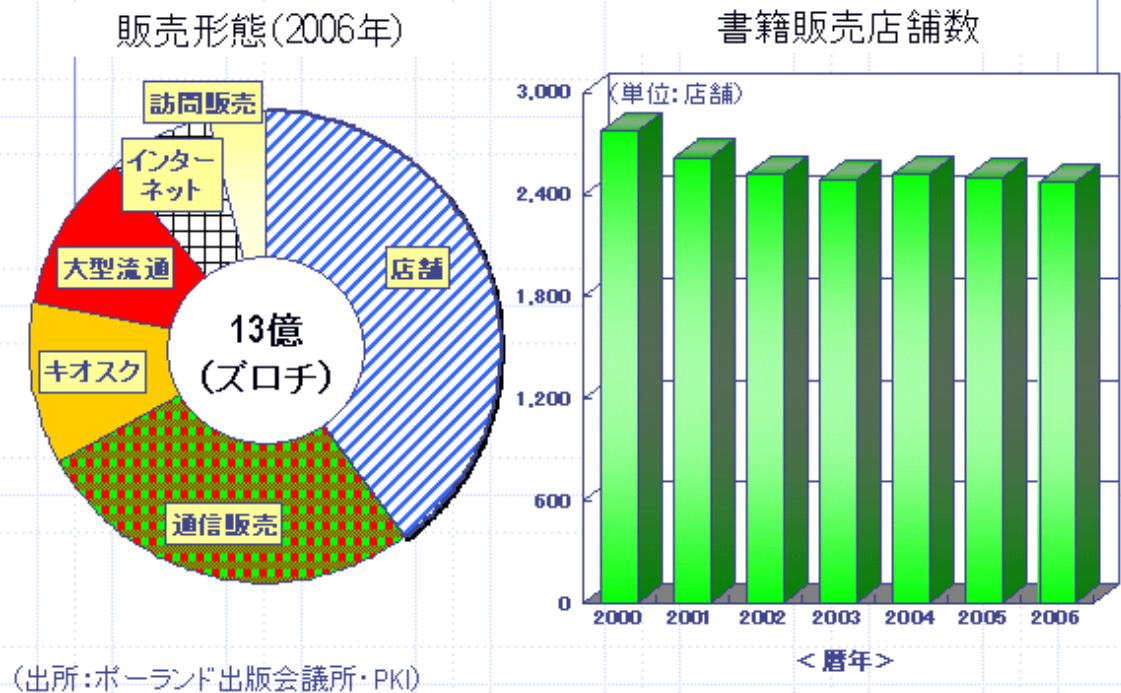
ポーランドの書籍流通市場では、依然として主力販売チャネルは、「専門店舗（書店）」販売（図3.参照）である。但し、最近は、「通信販売」「インターネット販売」など新形態での販売事業者の参入も相次ぎ、「店舗販売」は過去10年で半減している。「店舗販売」事業者については、経営は不安定なケースが圧倒的に多く、委託販売はリスクを伴う。供給側としては、買取をもとめる場合が多いが、それに応じない個人書店主も多い。一方、マンガ出版事業者は、潜在的な利用者が「興味をもった書籍を手にとって見る」ことができる点で、「店頭販売」は重要と考える。

店舗販売では、新興事業者のエムピック（本社：ワルシャワ市）が最大手である。同社は主要都市に強力なネットワークを保有して、店舗数は86（2006年末時点）に及ぶ。最近では、コンサートや朗読会などイベントも積極的に開催し、都市部での“文化発信拠点”としての性格をもち始めている。続いて、ポーランド南部を本拠とするマトラス（本社：カトヴィツェ市）であり、エムピックを上回る128店舗を展開する。ポーランドのマンガ出版事業・主要5社が、取引を行っているのは主にこの2社である。

【図3.】

# ポーランド・書籍小売流通の状況

## — 新手法の台頭で、店舗販売は縮小傾向 —

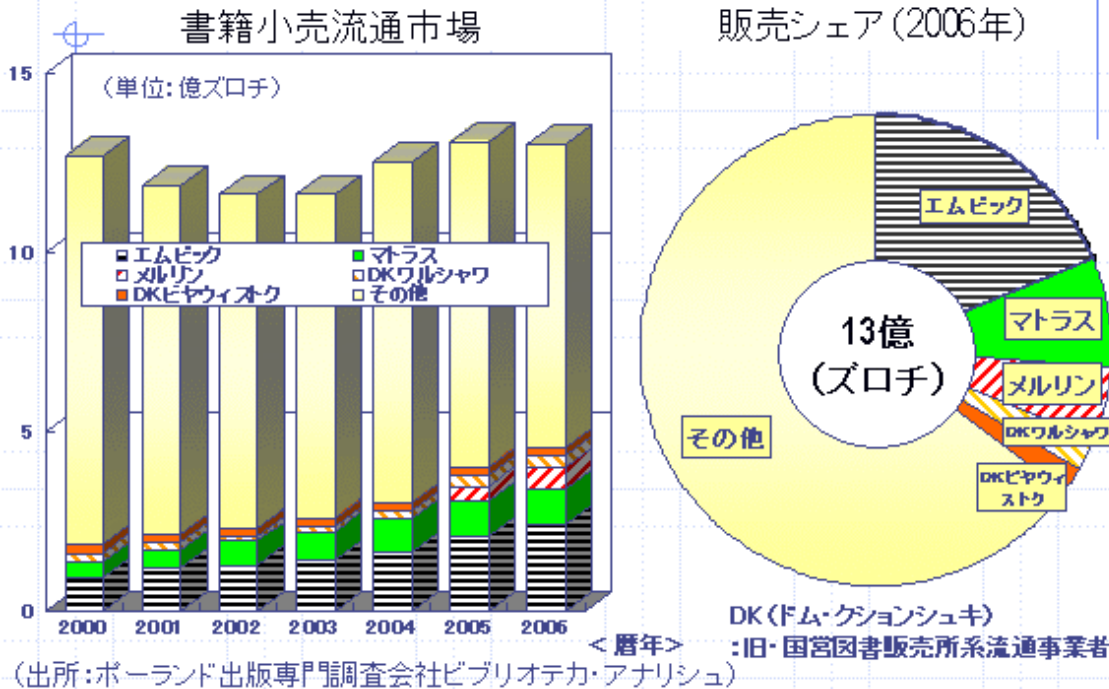


3番手のメルリンは「merlin.pl」と云うウェブサイトを経営するインターネット販売の最大手事業者である。インターネット販売や通信販売は、マンガ出版事業者も力を入れており、通信販売専門の卸売事業者経由よりも、自社直接販売の比率の方が高い。しかし、インターネット販売や通信販売の場合、購買者はホームページやカタログで、購入商品を選ぶため、マンガを読んだことがない新規購読層を獲得することは難しいため、購読層の“裾野”拡大は難しい。また、マンガ販売に関心を示さない卸売事業者も多い。

【図4.】

# ポーランド・書籍小売流通市場

## — 最大手エムピックの事業拡大続く —



その他、地方都市などを中心に中小の販売事業者は分立状態であるが、その中では、ドム・クシオンシュキ (Dom Książki; 直訳では“書籍の家”の意) と呼ばれる、旧・共産圏時代からある販売店が有力である。当時の国営・書籍販売所が、分割・民営化されたものであるが、グループとしては現在、機能していない。全体に占める割合も、過去10年で3分の1に減っており、出版事業側からは「支払い能力が低い」との認識されている。ワルシャワ市 (40店舗)、ビヤウイストク市 (44店舗) の他にも、ポズナン市 (19店舗)、グダンスク市 (22店舗)、ジェシュフ市 (18店舗) など主要都市で、独立した店舗網が運営されている。

ハイパーマーケットやスーパーマーケットなどの大型流通施設での販売も伸びている。但し、これらに参入する場合、1店舗当たり1,000ズロチ程度 (4万5,000円相当) の「施設利用料」を対象全店舗に応じて、支払う必要がある。主要チェーンは多数の店舗を展開しているため、中小の出版事業者にとっては、大きなコスト負担となり、単独での参入は簡単ではない。

#### (4) ポーランドで事業を行う意義

ポーランド・マンガ市場は、1996年のマンガ出版から11年を経過した現在でも、その規模は極めて小さい。それにも関わらず、東欧の中で、正規ライセンス契約のマンガが、継続して出版されているのは、ポーランドだけである。しかも、主要3社のうち、2社の経営者が日本人、という点でもユニークな存在である。

JPF社は最近、事業を縮小したが、2002年当時の『ドラゴン・ボール』のヒットに伴う収益を未だ蓄積しているようである。WANeko社の場合は、経営状況は厳しいものの、企業が存続しているのは、最低限の資金は回っている、と云うことであろう。

JPF社の『ドラゴン・ボール』の成功などの一部を除き、ポーランドにおけるマンガの発行部数は西欧や米国に比べると相当少ない状況である。ライセンス販売を行う日本の出版大手から見れば、ポーランドにライセンスを販売しても商業ベースでの収益性には限界がある。WANeko社は、「共同経営者のひとりが日本人であり、日本語で商談が行えて、日本人のビジネス・スタイルも理解できるため、事業を継続できる。」と日本のライセンス事業者から言われている。比較的規模が小さい企業でも生き残っているのは、ひとえに日本人と商談が行えるからであろう。

他方、エグモント社が、2002年にポーランドのマンガ市場に参入した背景には、2001年の世界的な『ポケモン』の大ヒットが強く影響していると思われる。また、既にマンガを本格的に発行していたエグモント・ドイツの存在が大きい。エグモント・ポーランドが発行するマンガの作品タイトルも、エグモント・ドイツで既刊の作品が主体である。

現在に至るまで、ポーランド市場でマンガが限られたタイトル数ながらも、新刊で定期的に出版されているのは、西欧に比べて、規模は小さいが、事業としての最低限の売上高は確保できる水準にあるといえる。

#### (5) 今後の展望

今後、数年のスパンで考えた場合、ポーランド・マンガ市場が急速に拡大する可能性は低い。本格的な「日本のマンガ・コンテンツ」の普及まで、相当の期間が必要と考えられる。

前述のとおり、ポーランドにおいてマンガは、西欧市場と比べても、相当に割高である。この割高感が解消するためには、「供給側が価格を下げる」か、「需要側の購買力が向上する」必要がある。前者は、現状の厳しい事業環境では、期待できないが、後者も相当時間

が掛かると思われる。

ある程度の効果が期待できるのは、流通部門との「在庫管理」などの問題の協力関係強化であると考えられる。ポーランドで現在、最もポピュラーな書籍流通チェーン「エムピック」では、マンガの新刊はほぼ全店舗に並んでいる。しかし、欠巻が多く「バックナンバー」が揃っていないケースは殆どない。卸売問屋側にはバックナンバーが揃えて在庫しているにも関わらず、エムピック側の各店舗が揃えて注文しないことが多々あるためと考えられる。エムピック側からすれば、店舗スペースの制約の事情もあり、概して、マンガ以外のコミックスは比較的充実しているが、マンガの販売スペースは大きくない、というのが現実である。この背景には、チェーン書店としてのエムピック経営層、および各店舗の店長レベルにおけるマンガへの無関心、理解の欠如という問題が指摘できる。同様の状況は、他の主要販売事業者（マトラスなど）にも当てはまる。

他方、主としてインターネットを通じての通信販売は、確実な販売方法として重要であるが、基本的には既にマンガに興味のある購読層の利便性を高めるものである。少しずつでもマンガ市場の“裾野”を広げていくためには、やはり、書店で偶然見掛け、「面白そうだから、買ってみた」という機会を提供していくことが重要であると思われる。依然として閉鎖的なマンガ市場を少しずつ開放していくことが、長期的なマーケティング戦略として、不可欠である。



全巻揃えていない商品陳列（シュチェチン市）

## (6) ポーランドの主な既刊マンガ一覧

2007年10月時点

	ポーランド語タイトル	原作タイトル	初刊 発行年	巻数	出版社
1	AZ DO NIEBA	天の果てまで	1996	3	J.P.F
2	CZARODZIEJKA Z KSIEZYCA	美少女戦士 セーラームーン	1997	18	J.P.F
3	APPLESEED	アップルシード	1998	4	TM-Semic
4	CZESC MICHAEL	What's Michael ?	1999	9	WANEKO
5	LOCKE SUPERCZLOWIEK	超人口ック	1999	10	WANEKO
6	AKIRA	AKIRA (アキラ)	1999	17	J.P.F
7	Dr. SLUMP	Dr. スランプ	1999	25	J.P.F
8	NEON GENESIS EVANGELION (雑誌形式)	新世紀 エヴァンゲリオン	1999	n.a.	J.P.F
9	CAT GIRL NUKU NUKU	万能文化猫娘	2000	1	MANGAYA
10	TU DETEKTYW JEZ	ハロー張りネズミ	2000	9	WANEKO
11	FUSHIGI YUUGI	ふしぎ遊戯	2000	18	J.P.F
12	SAILOR V	コードネームはセーラーV	2000	3	J.P.F
13	Oh! MY GODDESS	ああっ女神さまっ	2000	27	J.P.F
14	X	X	2000	18	J.P.F
15	DRAKUUN	(米国漫画)	2000	2	TM-Semic
16	JAK POWSTAJE MANGA	マンガの描き方	2001	12	WANEKO
17	DRAGON BALL	ドラゴン・ボール	2001	42	J.P.F
18	POKEMON ADVENTURES	ポケモン・アドベンチャー	2001	4	J.P.F
19	EDEN	EDEN ~ It's an endless world	2002	14	EGMONT
20	Bog Wojny EXAXXION	砲神エグザクソン	2002	7	EGMONT
21	Kombinezon Bojowy GUNDAM WING	新機動戦記ガンダムW (ウィ ング)	2002	4	EGMONT
22	ZAPISKI DETEKTYWA KINDAICHI	金田一少年の事件簿	2002	7	WANEKO
23	VIDEO GIRL AI	電影少女	2002	15	WANEKO
24	GTIS 1	攻殻機動隊 Ghost in the Shell	2002	1	
25	MARS	MARS	2003	15	WANEKO
26	PARADISE KISS	Paradisekiss	2003	5	WANEKO
27	LOVE HINA	ラブひな	2003	14	WANEKO
28	BATTLE ANGEL ALITA	銃夢 (ガンム)	2003	9	J.P.F
29	CHIRALITY	キラリティー	2003	3	J.P.F
30	CHOBITS	ちょびっツ	2003	8	J.P.F
31	COWBOY BEBOP	カウボーイビバップ	2003	2	J.P.F
32	GITS 2	攻殻機動隊 2	2003	1	J.P.F
33	MAGICZNI WOJOWNICY SLAYERS	スレイヤーズ	2003	8	J.P.F
34	NARUTO	NARUTO-ナルト-疾風伝	2003	22	J.P.F

35	PLASTIC LITTLE	プラスチックリトル	2003	1	J.P.F
36	TOKYO MEW MEW	東京ミュウミュウ	2003	7	J.P.F
37	WOLF's RAIN	ウルフズレイン	2003	2	J.P.F
38	CUTLASS The Times of Boys	賊-カトラス	2003	1	SAISHA
39	BRZOSKWINIA	ピーチガール	2003	13	EGMONT
40	GUNSMITH CATS	ガンズミスキャッツ	2003	8	EGMONT
41	SKRZYDLA SERAFINA	セラフィック・フェザー	2003	9	EGMONT
42	GTO	GTO	2004	19	WANeko
43	HIROSHIMA 1945	はだしのゲン	2004	6	WANeko
44	GITS 1.5	攻殻機動隊 1.5	2004	1	J.P.F
45	HELLSING	ヘルシング	2004	8	J.P.F
46	LEGEND OF LEMNEAR	レジェンド・オブ・レムネア	2004	3	J.P.F
47	NEON GENESIS EVANGELION (単行本)	新世紀 エヴァンゲリオン	2004	10	J.P.F
48	RECORD OF LODOSS WAR	ロードス島戦記	2004	3	J.P.F
49	VAMPIRE PRINCESS MIYU	吸血姫美夕	2004	10	J.P.F
50	WISH	Wish	2004	4	J.P.F
51	LES BIJOUX	(韓国漫画)	2004	5	KASEN
52	WSPOMNIENIA DEMONA	DEMON DIARY (韓国漫画)	2004	7	KASEN
53	RAGNAROK	(韓国漫画)	2004	6	KASEN
54	ISLAND	(韓国漫画)	2004	7	KASEN
55	METROPOLIS	メトロポリス	2004	1	ARASHI
56	INU YASHA basz z feudalnych czasow.	犬夜叉	2004	11	EGMONT
57	KAMIKAZE KAITO JEANNE	神風怪盗ジャンヌ	2004	7	EGMONT
58	Kombinezon Bojowy GUNDAM WING G-Unit	新機動戦記ガンダムW(ウィ ング) G-UNIT	2004	3	EGMONT
59	MIECZ NIESMIERTELNEGO	無限の住人	2004	13	EGMONT
60	RANMA 1-2	らんま 1/2	2004	16	EGMONT
61	TAKAMAGAHARA	夢幻伝説タカマガハラ	2004	5	EGMONT
62	SEIMADEN	アゼル聖魔伝	2005	11	WANeko
63	SAIYUKI	最遊記	2005	6	WANeko
64	HACK Bransoleta Zmierzchu	.hack//黄昏の腕輪伝説	2005	3	J.P.F
65	D.N.Angel	ディー・エヌ・エンジェル	2005	5	J.P.F
66	HEAT	ヒート	2005	5	J.P.F
67	PRIEST	(韓国漫画)	2005	4	KASEN
68	WARCRAFT	(韓国漫画)	2005	2	KASEN
69	PRINCESS AI	(米国漫画)	2005	2	KASEN
70	VAGABOND	バガボンド	2005	8	MANDRAGORA
71	WILD ROCK	ワイルド・ロック	2005	1	SAISHA
72	RURONI KENSHIN	るろうに剣心	2005	6	EGMONT
73	Mon-Star ATTACK	(スペイン漫画)	2005	2	EGMONT
74	USAGI YOJIMBO	(米国漫画)	2005	20	EGMONT
75	CAT SHIT ONE	CAT SHIT ONE	2006	3	WANeko



76	YAMI NO MATSUEI	闇の末裔	2006	5	WANEKO
77	CRYING FREEMAN	クライイングフリーマン	2006	4	J.P.F
78	FULLMETAL ALCHEMIST	鋼の錬金術師	2006	7	J.P.F
79	KRONIKI MIECZA	RECORD OF THE WARRIOR (韓国漫画)	2006	2	KASEN
80	LEGEND	(韓国漫画)	2006	2	KASEN
81	SAMOTNY WILK I SZCZENIE	子連れ狼	2006	6	MANDRAGORA
82	CHONCHU	(韓国漫画)	2006	3	MANDRAGORA
83	YONGBI	(韓国漫画)	2006	3	MANDRAGORA
84	NIE DZIEKUJE !	まにあってます！	2007	2	WANEKO
85	DEATH NOTE	Death Note (デスノート)	2007	1	J.P.F
86	ANGEL SANCTUARY	天使禁猟区	2007	2	J.P.F
87	SAIHOSHI	(スペイン漫画)	2007	1	KASEN
88	SUPPLI	サプリ	2007	1	HANAMI

日本原作のマンガ・コンテンツ以外も含む

(出所：企業ウェブサイト情報に基づきポーランド・マンガ出版事業者 WANEKO 社作成)

以上